

キリスト教保育

年主題

共に喜んで

～すべての歩みの中～

子どもと賛美するために

「あのね」

論説

愛と配慮を必要とする者たちの存在
によって世界は保たれる(1)

佐治由美子

小論

ごっこ遊びを考える

前田和代

聖書にきく・お話

後宮 敬爾



2021 OCT 10



地はおのずから実を結ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。

口語訳聖書・マルコによる福音書4章28

ある人が種をまいた種は、その人が知らない間に成長し、初めに芽が出、つぎに穂を伸ばし、やがて、その穂の中に、多くの実を結んだ。その人は、大喜びでかまを入れ、実を刈り取った、という風に語られています。

その人の「知らない中に」というところが一つのポイントでしょう。種そのものの中に<生命力>が溢れています。その生命力が、種を成長させてゆくのです。「初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる」とも書かれています。ここが二つ目のポイントでしょう。種が芽生えたばかりなのに、すぐ実を期待することはできません。種の成長には、おのずから<順序>という法則が存在するのです。そして、終わりに「実ができる」と書かれています。そこには<実り>の喜びが隠されています。これが、このたとえの三つ目のポイントではないかと思うのです。このたとえの真理を、世の親や保育者が知ってくださったら、どんなに素晴らしいことだろうかと思うのです。

子どもの教育の中で、私たちは繰り返し、一つの思い違いに陥ります。子ども自体の中に、可能性と生命力がある、ということをおぼえてしまうことです。

何もないところから、子どもの人間形成をやってゆくのではないのです。すでに「与えられているもの」が、子どもの中に存在しているのです。種の中には<生命力>が宿っていて、種を成長させ、実らせることができるのです。このことを「信じられる」人は幸いです。子どもを見つめ直す時、子どもは私たちに、その生命力と可能性を開いて見せてくれるでしょう。種から芽、芽から穂、穂から実り、という順序を飛び越えることはできません。子どもの成長も同様です。幼な子の時代には、幼な子の時代に十分味わわせなければならないものがあります。

最後に<実り>のことを考えてみましょう。教育は何を目指すべきでしょうか。私たちは、聖書により「わたしたちは互いに愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである」(ヨハネの第一の手紙4:7)と教えられています。ここに、教育の最後の目標があり<実り>があります。子どもの<成長>の旅は「愛する」ことにおいて、最後の<実り>に達します。皆さんの愛する子どもたちが、良き<実り>を得ることができるよう。

岡本不二夫・執筆 当時・日本キリスト教団平塚教会牧師 附属平塚二葉幼稚園園長
1986年「キリスト教保育」誌 10月号より

一部省略、要約してあります。新共同訳聖書では、マルコによる福音書4:28です。



キリスト教保育

第631号10月号



年主題

共に喜んで

～すべての歩みの中～

幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉

アタッチメントが拓く
子どもの未来 遠藤利彦

〈論説〉

愛と配慮を必要とする者たちの存在
によつて世界は保たれる(1) 佐治由美子
子どもと賛美するために

〈小論〉

ごっこ遊びを考える 前田和代
聖書にきく・お話 後宮 敬爾

【カリキュラム】

10月 月のねがい表

心にとめて 寺田千栄

0・1・2歳児 阿久根めぐみこども園

実践からの学び 布村志保

心にとめて 大瀬知子

3・4・5歳児 雪ヶ谷ルーテル幼稚園

実践からの学び 清水真理

〈連載〉 保育者する人々への

12のメール 石丸 昌彦

〈新連載〉 音楽つて、すごい!

楽器つて、すてき! 桃原和子

図書紹介 安心院敏子 児玉芽

目福 口福 耳福 中野富美子

礼拝のお話 小石澤麻美

風 山中正雄/編集子 星野牧

連盟だより

2

3

4

6

15

16

20

23

24

24

32

33

36

41

42

44

47

48

49

60

61



表紙絵
カット

田中慎子
長野祥三 長縄えいこ
中畝治子 松成真理子
金井ユリ 野田美佳